

大正時代から庭球として親しまれ 地域に根付いた生涯スポーツ ～ソフト（軟式）テニスと（硬式）テニス～

昭和50年当時、滝川市の硬式テニスの状況は、少数の愛好者が空知川河川敷のコート等で各々プレーを楽しんでおり、その中で有志が集まり、昭和55年に滝川テニス協会を設立しました。外部コーチを招き講習会を行うなど、選手強化事業や普及活動を行うほか、近年では初級者、未経験者向けの講習会を開いています。これらの取り組みにより市内の競技人口が増え、滝川テニス協会の会員数も増加へとつながりました。

滝川テニス協会について

滝川市におけるソフトテニスの歴史はとても古く、大正時代に庭球愛好者が集まり、瀧門クラブコート（現在の栄町3丁目3番付近）でプレーしていたことが市史に記されています。昭和40年代には、さまざまな職場でテニスコートが整備され、職場ごとに楽しまれていた中で、各職場から連盟を組織する話が持ち上がり、現在の組織の前身である「滝川軟式庭球連盟」が昭和44年4月に設立されました。近年では、小学生からの普及活動に力を入れ、生涯スポーツとしての発展を目指して取り組んでいます。

滝川ソフトテニス連盟について



◀練習試合を通して、会員同士で交流を楽しむ様子



◀平成24年10月、ドイツからソフトテニスの親善試合に訪れた中高生との交流の様子

「自分もやってみたい」
その気持ちから！

\\ 生徒の声 //



明苑中学校 2年生
女子ソフトテニス部 部長
藤森 真衣さん

◆テニスを始めたきっかけは何ですか？
高校生と大学生の二人の姉がいるのですが、今の私と同じように、中学校のテニス部に入っていましたので、姉たちの姿を見ているうちに興味が湧き、「自分もやってみたい」と思うようになり、中学1年生から始めました。

◆テニスをやっていて、楽しいと感じるのは、どんなときですか？
ボールを狙いたいコースにコントロールして打てるようになったときや、「速い球を打ちたい」など自分で掲げた目標を達成できたときが、楽しいと感じる瞬間です。



◆部活動について教えてください！
現在、部員17人で楽しく活動しています。冬の期間は、積雪で外のコートが使えないため、学校の廊下でボールを打ったり、筋トレをしたりと、トレーニングを中心に活動しています。割り当てられている日には、体育館でネットを張って練習もします。

◆今後の意気込みをお願いします！
春になり、新しくなったコートで、たくさん練習できることを想像するだけで、私はもちろん、きっと部員もうれしいと思います。まずは、6月の中体連に向けて練習を重ね、滝川で行われる大会でも、よいプレーができるように頑張りたいです。4月のテニスコートオープンが楽しみです！

新しいテニスコートで新たな一歩を

今回取材にご協力いただいた藤井会長、林副会長のお話から、テニス人口を増やすには「若い世代にテニスの楽しさを知ってもらう」ことがカギとなりそうですね。そんな中、藤森さんのお話を聞くと、練習場など選手を取り巻く環境が、モチベーションを上げるうえで重要だということが分かりました。4月29日のオープンを機に、滝川市テニスコートは生まれ変わります。テニスに興味がある方、これからは選手としてレベルアップされたい方は、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

熱い思いを語る

コミュニティの輪を広げていきたいですね。

愛好者同士の交流や仲間づくりを一番に、

ソフトテニスを盛り上げていきたいですね。

これからは、滝川で全道規模の大会も開催し、



滝川テニス協会
(平成28年就任)
林 正一郎 副会長

協会の活動としては、テニスの好きな熱心な方々が集まり、健康維持のためや、さらなる技術向上を目指し、試合に出るための強化練習などを行っています。現在の協会の構成は高校生や社会人などが中心ですが、今後は小学生以下の子どもたちにもテニスの楽しさを知ってもらいたいです。また、会員数を増やす努力をもっと行い、コミュニティの輪を広げていきたいと思っています。

■テニスを取り巻く環境について

現在、硬式テニスは中体連の種目ではありませんが、数年前から加盟を目指す動きがあります。これが実現されれば、硬式テニスの人口も急速に増えてくるのではないかと期待しています。そのような中で、いち早く小学生を対象とした講習会などに取り組めればと思っています。

■初心者でも楽しめる

私自身も、30代になってからテニスを始めました。以来、テニスの魅力にのめり込んで夢中になって練習をしました。

硬式テニスは、年齢や性別に関わらず初心者の方でも気軽に楽しめるスポーツだと思います。

■4月のオープンに向けて

現在は、ソフトテニスの大会などが多いですが、硬式テニスも大会などを増やしていき、将来的には大きな大会も行えるようにしたいです。また、一般の愛好者の方たちも使いやすいように軟式・硬式両団体がお互い協力し合いながらテニスコートを利用していかたいと思っています。

滝川ソフトテニス連盟
(平成7年就任)
藤井 謙和 会長



連盟のテニス教室などでは、15年ほど前まで小学生の受け入れはしていませんでした。しかし、少子化が進む中、ソフトテニスをする子どもたちが減少しないよう「小学生から指導していこう」ということで、連盟の役員や指導者の皆さんに強く働きかけをし、ジュニアの育成に力を注いできました。現在では、滝川の小学生から高校生までの選手が毎年のように、全国大会に出場するなどの成果も現れてきています。

■子どもたちの体力低下

生活様式の変化などが影響し、子どもたちの体力低下が進んでいます。子どもたちの体力を向上させるためには、スポーツに気軽に参加してもらえる環境づくりが必要だと感じています。

■今の子どもたちは、技術レベルが高い

私の学生時代は、生徒数も多かったのですが、初めのうちは球拾いばかりで、コートでボールを打てないことが普通でした。先輩の見よう見まねで、ずっと壁打ちをしていて、しっかりと教えてはもらえなかったもので、今の子どもたちと比べると、あまりレベルが高くはありませんでした。今は、設備もよいので、優秀な指導者がいればレベルはますます上がっていくと思います。

■指導者の重要性

学習でもいえることですが、スポーツにおいても優秀な指導者の存在は大切です。連盟では、選手や指導者を育成するための講習会なども行っています。子どもの育成だけではなく熱心な指導者の育成にも取り組んでいきたいです。